

劍聖

高野佐三郎遺品展

明信片(秩父市中町)



【主催】秩父市教育委員会

【剣聖】

高野 佐三郎



たかの・ささぶろう（1862～1950）

文久2年（1862）6月13日、武蔵国秩父郡大宮郷（現 埼玉県秩父市内）に生まれる。4歳のとき祖父佐吉郎苗正から小野派一刀流組太刀を習い、5歳のときには組太刀56本を忍藩主、松平下総守忠誠公に上覧し、銀子一封に「奇童」の字を添えて賜った。18歳のとき志を立てて上京し、山岡鉄舟の春風館に入門し剣道修行を行った。祖父の死により、一度は秩父に帰郷したが、山岡の薦めで警視庁、埼玉県警に奉職し、37歳で退職した後は、剣道の普及と後進の指導に尽力した。道場については浦和、東京九段下に明信館、東京神田に修道学院を建設した。警視庁剣術世話係、巡査訓練所武術教授、海軍機関学校剣道教授、東京高等師範学校教授、埼玉師範学校武術教授、陸軍戸山学校・士官学校・早稲田大学・東京高等工業学校剣道師範などを務めた他、様々な場面で講師として指導にあたるなど、剣道教育の第一人者として多くの子弟を育成した。その一方で、2度にわたってアメリカを訪れ、剣道の普及にも努めた。

明治45年（1912）には大日本帝国剣道形調査委員主任を任され、それまで流派によって異なった剣道形の統一作業に中心となって従事し、数回の修正の後、大正6年（1917）に「大日本剣道形」を完成させた。この形は「日本剣道形」と改称され、現在でも継承されている。また、長年の研究の成果を収めた自著『剣道』『日本剣道教範』は、剣道界から大いに称賛されたのみならず、天覧の栄にあずかった。

武術家優遇の時世下で、数多くあった天覧および台覧の場においてもその才能を遺憾なく発揮したため、皇太子殿下御降誕の記念式に招かれたり、閑院宮殿下剣道教授役を仰せ付かるなど、皇族とも非常に強い繋がりをもっていた。

「剣道範士」の称号をもち、高等官二等、正四位に叙された他、大日本武徳会一等有功章、日本体育会一等有功徽章などを授与されている。

昭和25年（1950）12月30日、神奈川県鎌倉市極楽寺の自宅にて逝去。享年89歳。現代剣道の基礎を築いた功績や剣道に捧げたその一生涯から、彼は「剣聖」と称されている。彼の生家のあった場所（秩父神社境内）には、彼を偲ぶ人々によって頌徳碑が建てられている。



ロサンゼルス・ワニ公園にて



講道館嘉納治五郎と
高野佐三郎



高野佐三郎著『剣道』

⑤国体剣道会場（文化体育センター）へ



④高野佐三郎の墓（廣見寺内）



①秩父明信館



③秩父まつり会館



②秩父神社



②高野佐三郎頌徳碑（秩父神社内）

秩父市内 高野佐三郎ゆかりの地



高野佐三郎年表

- 1862(文久2) 6/13 秩父郡大宮郷にて高野家の長男として生まれる。
- 1865(慶応1) 祖父苗正に師事して小野派一刀流組太刀を学ぶ。
- 1866(慶応2) 小野派一刀流組太刀 56本の形を、松平下総守忠誠公に上覧し、称賛される。賞与として「奇童」の2字を添えられた銀子一封をいただく。
- 1879(明治12) 4 試合に敗れ、立志して上京し、山岡鉄舟の門人となる。
- 1884(明治17) 9/27 祖父苗正死去にともない、春風館(山岡鉄舟の道場)から秩父明信館に帰る。
- 1885(明治18) 1/15 浅賀ワイと結婚。
- 1886(明治19) 4/1 警視庁に奉職。元町警察署世話係となる。
- 1887(明治20) 11 芝弥生社において両陛下の天覧をたまわる。
- 1888(明治21) 10 埼玉県警察本部備員になる。浦和の師範学校前に道場(明信館)を建設し、引っ越す。
- 1896(明治29) 3/31 埼玉県警部兼巡查教習所武術教授と埼玉県師範学校武術教授に任じられる。
- 1899(明治32) 3 埼玉県警部を退職し、巡查教習所教官となる。九段下(東京都千代田区)に道場(明信館)を建設し、引っ越す。浦和明信館については駅前の体育ヶ原に移築し、弟子に一切の運営を任せる。
- 1902(明治35) 6/3 武術家優遇例が制定される。
- 1903(明治36) 4~ 第5回内国勸業博覧会武道大にて優勝をかざる。また、天皇陛下に武術天覧をたまわる。
- 1908(明治41) 4/1 東京高等師範学校撃剣科講師・東京高等工業学校剣道師範を嘱託。
- 1909(明治42) 8 大日本武徳会総裁より一等有功章を授与。
- 1910(明治43) 4/10 早稲田大学剣道部講師を嘱託。
- 1911(明治44) 10/5 日本体育会総裁より一等有効徽章を授与。
- 1912(明治45) 6/18 大日本帝国剣道形調査委員兼主任となり、中心となって活動する。
- (大正1) 10/16 大日本帝国剣道形制定に対し、大日本武徳会大浦会長から「剣道統一」の揮毫をいただく。
- 1913(大正2) 4 陸軍士官学校・陸軍戸山学校剣道師範を任じられる。
- 4/28 大日本武徳会より「範士」の称号を授与。
- 1915(大正4) 神田今川小路に修道学院を建設。
- 3 自著『剣道』発刊。各方面から称賛され、天覧をたまわる
- 1916(大正5) 4/8 東京高等師範学校教授に任じられる。
- 1917(大正6) 6/27 吹上御苑にて両陛下の天覧をたまわり、御紋章入の煙草やお菓子などを頂戴する。
- 9/30 大日本帝国剣道形を発表。
- 1919(大正8) 5/12 閑院宮殿下剣道教授役を仰せ付かる。
- 1921(大正10) 4/18 海軍機関学校剣道教授に嘱託。
- 1923(大正12) 9/1 関東大震災に遭い、九段下の自宅や修道学院などを焼失する。
- 1924(大正13) 3 浦和市(現さいたま市)岸町に引っ越す。
- 1927(昭和2) 9/10 妻ワイ死去。
- 1928(昭和3) 4 自著『日本剣道教範』が天覧に供される。
- 1929(昭和4) 5/4 宮城内旧三の丸覆馬場における御大礼奉祝天覧武道大会にて、範士・教士の審判を仰せ付かる。
- 1931(昭和6) 7/2 早稲田大学剣道部を引率して1回目の渡米。
- 1932(昭和7) 6/27 柏とみと再婚。
- 1933(昭和8) 7/24 埼玉の剣士32人を引率して渡満。満鉄剣道部と対抗試合を行い、天覧をたまわる。
- 1934(昭和9) 2/27 皇太子殿下御降誕奉祝記念式に招かれ、天杯をたまわる。
- 5/4 済寧館で行われた皇太子殿下御誕生奉祝天覧武道大会にて大日本剣道形を披露する。
- 1936(昭和11) 4/28 高等官二等を昇叙。
- 5/22 正四位を叙される。
- 1938(昭和12) 7/5 早稲田大学剣道部を引率して2回目の渡米。
- 1940(昭和15) 6/18 紀元2600年奉祝天覧武道大会にて、最後の大日本帝国剣道形を天覧に供する。
- 6/23 後妻とみ死去。
- 1941(昭和16) 11/26 佐藤と志と再婚。
- 1945(昭和20) 3/3 浦和市岸町から秩父に疎開。
- 1950(昭和25) 3/17 後妻と志死去。
- 8 秩父から鎌倉市極楽寺に移転。
- 12/30 鎌倉市極楽寺の自宅にて逝去。